

サガハイマツト通信

VOL. 9

(平成27年1月号)

2月15日に医療フォーラム



昨年の医療フォーラムの様子

期待に応えられるよう、設備とスタッフ増強



公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団
理事長 十時 忠秀

あけましておめでとうございます。

九州国際重粒子線がん治療センターは一昨年8月27日に治療を開始しました。昨年12月末現在、治療患者数は547名で、当初目標をはるかに超える数字です。多くの連携病院のご協力と、当センター医療スタッフの頑張りによるものと感謝しています。今後も患者数の増加が見込まれますので、患者さんのご期待に沿えるよう現在稼働している2つの治療室に加えて、3室目の整備を開始しました。さらに当センタースタッフの増員も考えております。患者さんに満足していただける治療実績を積み重ねてまいりますので、今後ともご支援、ご指導をお願いいたします。



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812

(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)

メール saga-himat@saga-himat.jp

松延 亮 医師
着任から半年を
振り返って



松延 亮 (まつのぶあきら)

放射線治療専門医、がん治療認定医。広島大学医学部を卒業後、九州大学放射線科、九州医療センター、放射線医学総合研究所重粒子医学センター病院、福岡東医療センターを経て、昨年7月からサガハイマツで勤務。

サガハイマツ 骨軟部、

九州国際重粒子線がん治療センター「サガハイマツ」は、2013年5月の開設以降、計画を上回る多くの患者さんに利用いただいています。また、一昨年12月に頭頸部、骨軟部の治療を始めてから1年がたちました。昨年7月に着任した松延亮医師が両部位の治療状況などを振り返ります。

スタッフを増員し体制強化

▼診療時の心掛け

4年前、千葉県の放射線医学総合研究所で1年間研修し、重粒子線治療を学びました。その後、地域がん診療連携拠点病院である福岡東医療センターで放射線治療専門医として根治照射から緩和照射まで幅広く担当していました。今回サガハイマツに赴任し、再び重粒子線治療に携わることができ、大変うれしく思っています。

着任から半年たちますが、サガハイマツには多くの患者さんが来られ、病状もさまざまです。心がけているのは、患者さんに対する十分な説明です。重粒子線治療以外にも治療法の選択肢がある場合、それぞれの特徴について時間をかけて説明し、患者さんが納得した上で治療法を決めていただくようにしています。前任地で様々な病気の治療法について他診療科の医師と連携し、総合的に判断していた経験がサガハイマツで生きていけると感じます。

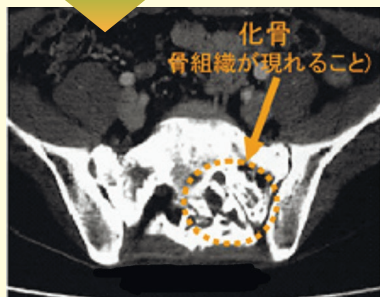
▼頭頸部の治療状況

一昨年12月から頭頸部がんと骨軟部腫瘍の治療を始めました。頭頸部は脳や目を除く首から上の部分で、頭頸部腫瘍の治療は外科手術、放射線治療、抗がん剤を加えた集学的治療が行われています。しかし、腫瘍の発生場所、進展範囲から、手術による完全



治療前

【仙骨骨肉腫の治療例】



治療後5年

資料提供：公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団

頭頸部の治療開始から1年

切除ができない場合もあります。また、外科手術ができたとしても、頭頸部には目や耳、口などの重要な機能があり、手術によってその機能が損なわれたり、顔の形が崩れたりするなど一定のリスクも伴います。

重粒子線治療は線量集中性に優れ、生物学的効果が高いという特長を有し、いわゆる殺細胞効果の高い放射線を大線量で照射することが可能なため、そうしたリスクを軽減でき、従来の放射線治療では効きにくかったがんにも効果が期待できます。サガハイマツでの頭頸部がんの治療は昨年12月末時点で35人です。発生場所は鼻腔、副鼻腔、頭蓋底が多く、組織型は腺様嚢胞(せんようのうほう)がん、粘表皮がん、悪性黒色腫等が多くなっています。いずれも、外科手術では難しいものばかりです。

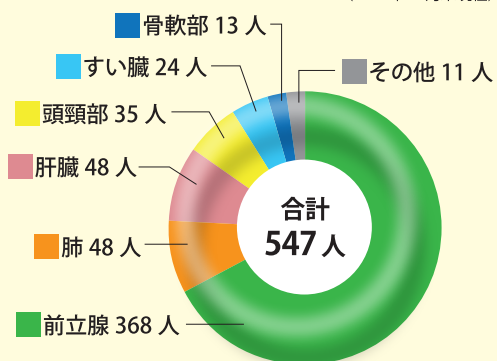
▼骨軟部の治療状況

骨軟部腫瘍は骨にできる骨腫瘍と、筋肉や関節に発生する軟部腫瘍があり、根治治療としては外科手術が一般的です。しかし、脊椎や骨盤骨等の体幹部から発生した腫瘍、あるいは進行した症例では、手術できない場合もあります。骨軟部腫瘍は一般的に放射線治療が効きにくく、また体幹部では腸や脊髄等の放射線をあまり照射できない重要臓器に接していることも多いため、エックス線など一般的な放射線治療では効果は不十分でした。

重粒子線治療はこうした重要臓器への影響を抑えて照射できることが特長で、サガハイマツでは12月末時点で13人を治療しました。発生場所は脊椎近くや骨盤骨等の体幹部が多く、種類は骨肉腫や腰の仙骨にできる脊索(せきさく)腫等の骨腫瘍、脂肪肉腫や平滑筋肉腫等の軟部腫瘍の治療を行いました。外科手術ができない、あるいは難

サガハイマツでの部位別治療患者数

(2014年12月末現在)



しいケースを重粒子線治療がカバーしているといえます。

▼治療を終えた方の状況

頭頸部がん、骨軟部腫瘍とも照射回数は16回です。治療途中は生活に支障が出るような副作用は見られませんが、患者さんからも「治療時間は短いし、痛みも伴わない」といった声をいただいています。治療成果としてきちんと分析するためには数年間、長期的に経過観察していく必要はありますが、治療直後に、症状や痛みが軽くなったという患者さんもいらっしゃいます。QOL(生活の質)を落とすことなく治療できるのは、重粒子線の大きなメリットだとあらためて感じています。

▼今後の抱負

重粒子線治療は体への負担が少なく、効果も高い治療です。ぜひ治療の選択肢として考えてほしいですね。若い人から高齢者まで、患者さんのニーズはさまざまですが、これからも一人一人としっかりコミュニケーションをとり、お互い納得の上で治療していきたいと考えています。

▼INFORMATION

参加者
募集

2月15日に 医療フォーラム

がん治療の新たな選択肢として期待されている重粒子線がん治療と、その最先端の治療を提供するサガハイマツについて理解を深めてもらおうと、サガハイマツとサガテレビの主催により、医療フォーラムを開催します。入場は無料です。

サガハイマツ&サガテレビ医療フォーラム

「がん治療の正しい知識を～重粒子線と放射線～」

入場無料
定員:先着300名
(参加登録が必要)

とき 2015年2月15日(日)13:00～14:30 ところ アバンセホール(佐賀市天神)

- 「サガハイマツにおける重粒子線がん治療の現状」
塩山善之(九州国際重粒子線がん治療センター副センター長)

参加登録方法

WEBまたはFAXでお申し込みください。

WEB <http://www.sagatv.co.jp/>

FAX 0952(29)2868

(住所、氏名、連絡先、参加人数を記入)

- 基調講演 「日本のがんと放射線治療」
中川恵一氏(東京大学医学部附属病院放射線科准教授)



問い合わせ

サガテレビ ☎0952(23)9118

(平日 9:30～17:30)

スタッフ紹介

医療情報管理室 森 健輔

【略歴】もり・けんすけ ■1987年、佐賀県生まれ。福岡国際医療福祉学院診療情報管理専攻科卒業後、福岡県内の医療機関に診療情報管理士として勤務。2012年11月から佐賀国際重粒子線がん治療財団に勤務。診療情報管理士。



裏方として診療サポート

サガハイマツには情報システム立ち上げ段階から携わり、システムの構築に寄与してきました。医療情報管理室の主な業務は「診療情報の管理」と「情報システムの管理」です。情報管理では、「診療情報の有用性を高める」、「個人情報保護厳守」を念頭に、日々正確に診療録を管理します。また、がん診療の質の向上を目指し、診療統計で診療の実態把握を行います。システム管理では、複数のシステムで構成されている診療現場を技術的に支援し、円滑な診療を裏から支えています。今後、地域医療機関とのシステム連携を活発に行えるよう体制を整え、より質の高い診療の実現を目指します。

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん治療の充実につながるサガハイマツへのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当法人へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当法人までお問い合わせください。

サガハイマツ通信 vol.9

(平成27年1月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当) 落合

住所 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地

TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905

HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>